

第6回青葉通駅前エリアのあり方検討協議会 〈青葉通駅前エリア将来ビジョンの検討について〉

1

目次

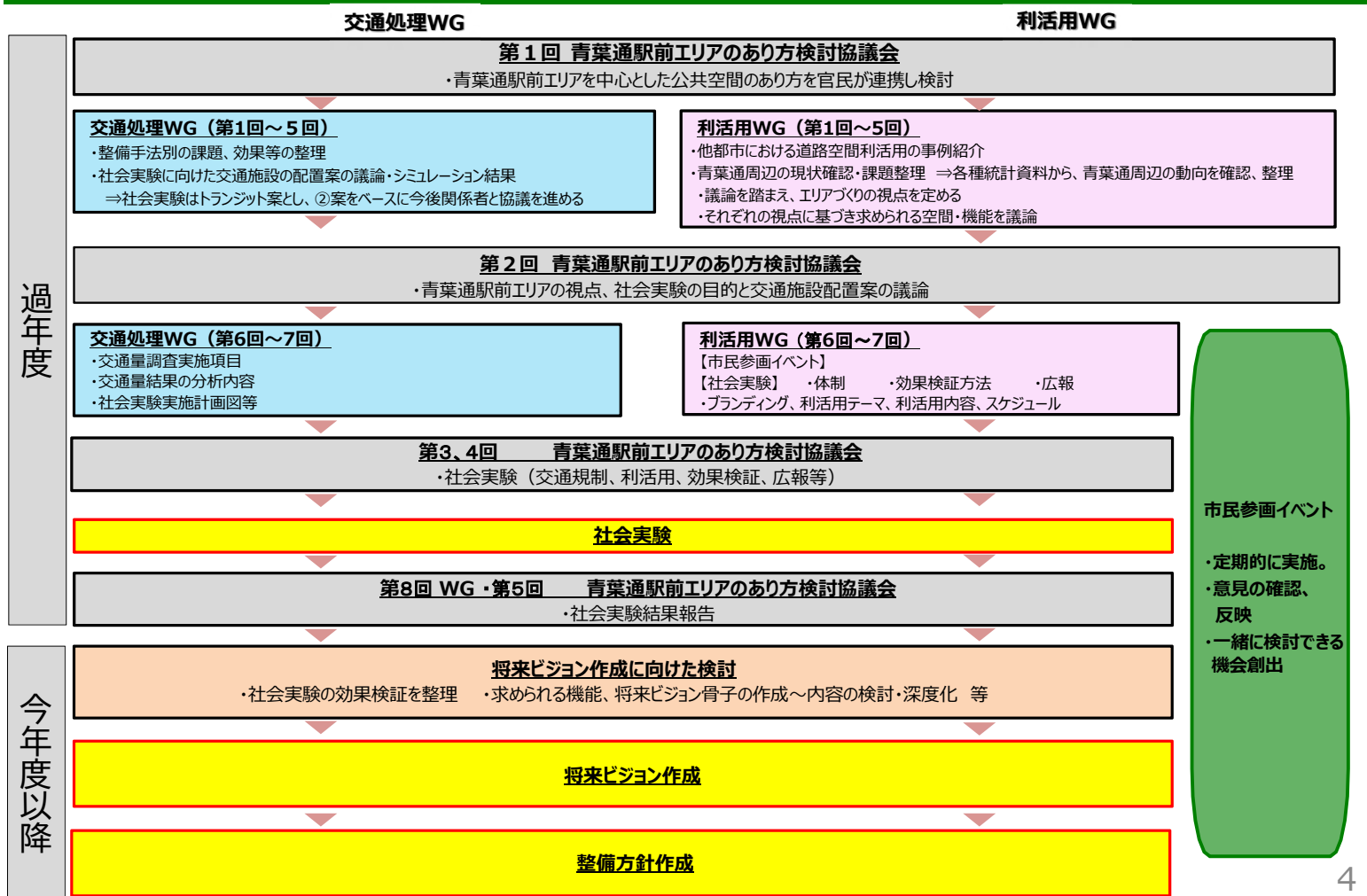
1. これまでの検討状況(社会実験までの経緯)
2. 社会実験結果の振り返り
3. 今後の進め方

【参考資料】 他都市の将来ビジョン

2

1. これまでの検討状況

1. これまでの検討状況



1. これまでの検討状況

エリアの課題抽出

・各種統計データ等から見る、青葉通駅前エリアの将来の姿

<全国的な動向を踏まえた位置づけ>

- ①コロナ禍をきっかけに、テレワークが浸透
- ②年少人口が減少し、若年層の減少

②年少人口が減少し、若年層が減少

10年間の年少人口減少率（2012年～2021年）

順位	県名	年少人口減少率	年少人口減少数
1	東京都	6.4%	+95673人
2	沖縄県	-1.4%	-3546人
3	福岡県	-2.2%	-15397人
⋮			
18	宮城県	-10.4%	-31658人
⋮			
40	山梨県	-15.8%	-17768人
41	高知県	-16.0%	-14618人
42	和歌山県	-16.5%	-21182人
43	山形県	-17.8%	-26216人
44	福島県	-18.1%	-47297人
45	岩手県	-18.7%	-30854人
46	青森県	-21.5%	-36435人
47	秋田県	-22.5%	-27283人

出典 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（総務省）より作成

1. これまでの検討状況

エリアの課題抽出

・各種統計データ等から見る、青葉通駅前エリアの将来の姿

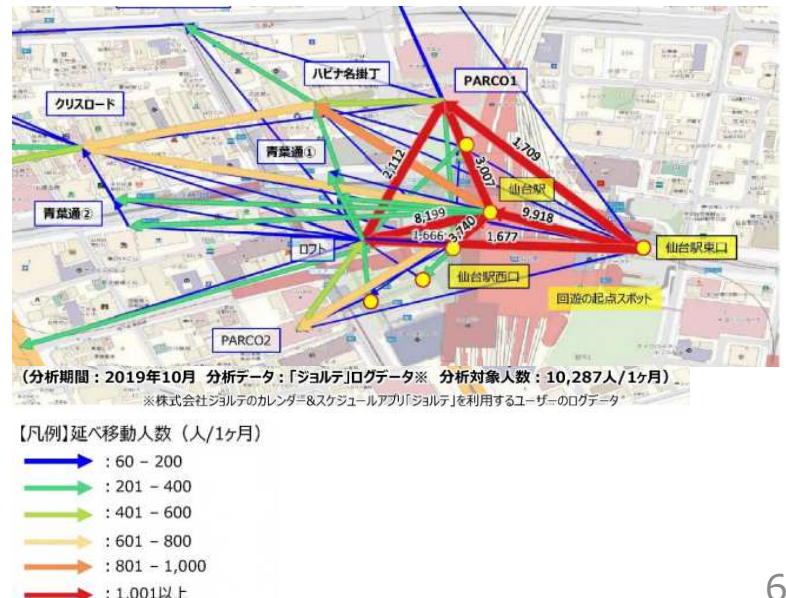
<実際の青葉通の現状>

- ③歩行幅員が十分でない歩道空間
- ④ペDESTリアンデッキと東西自由通路だけで回遊

③歩道幅員が十分でない歩道空間



④ペDESTリアンデッキと東西自由通路だけで回遊



1. これまでの検討状況

エリアの課題抽出

- 仙台駅周辺は、歩行者が多い。
しかし、人がたくさん歩くだけ（通過するだけ）で、「賑わいがある」と感じるでしょうか
- 人が「集まり、滞在し、交流し、活気がある」と感じられることが「賑わい」ではないでしょうか
⇒ 実現すれば、来街者に青葉通駅前エリアは居心地がよく、また来たいと思ってもらえるのではないのでしょうか
- ⇒ 現状はどのような状況でしょうか



平日朝の勾当台公園駅



平日13時頃の青葉通駅前エリア



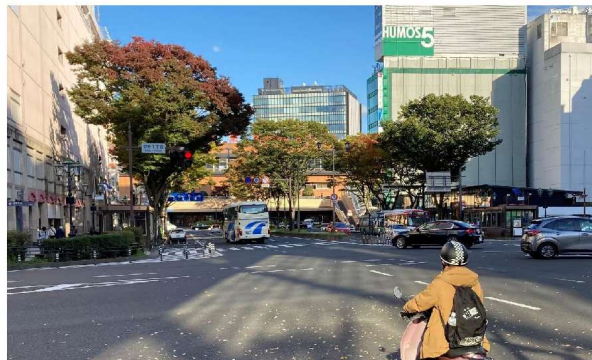
平日19時頃の青葉通駅前エリア

7

1. これまでの検討状況

エリアの課題抽出

- ・まちにも表情があるのではないかと。



8

2. 社会実験結果の振り返り

9

2. 社会実験結果の振り返り

社会実験概要

【実施内容】

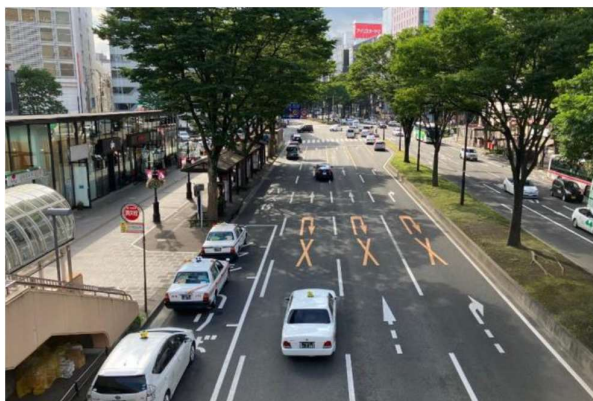
仙台の顔としての新たな賑わい創出に向けた公共空間の利活用

【期間】

令和4年9月23日(金)～10月10日(月)の18日間

【交通規制】

車線数の減少、一般車通行止め(バス・タクシーのみ通行可)、旧さくら野前・ほうげつビル前へのバス停の移転



実験前(EDEN側)



実験中(EDEN側)

10

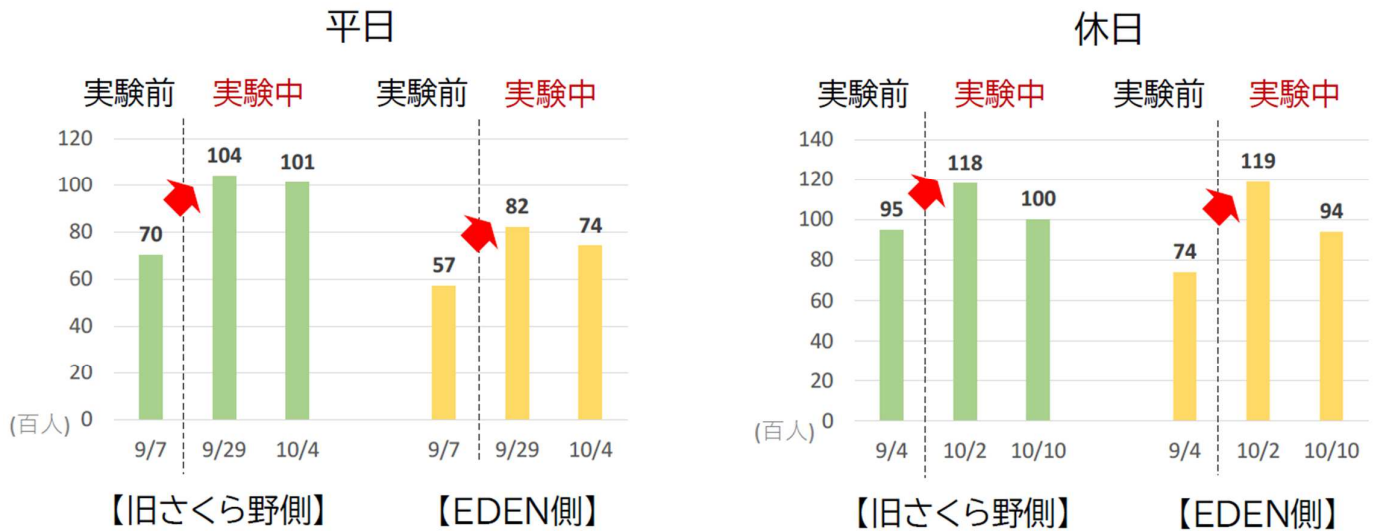
2. 社会実験結果の振り返り

社会実験結果

(1) 来訪者の特徴、市民の意向

- ① 旧さくら野側、E D E N側とも、実験前と比較して歩行者交通量が増加
- ② 普段の歩行者は20代～50代のバス利用者（学生、会社員）が大半
- ③ 実験中は幼児や小学生などの親子連れ、中高生などが大幅に増加
- ④ 「良い取組み」との意見が全体の7割、30代までの若い世代、市外居住者では8～9割

歩行者交通量の変化



11

2. 社会実験結果の振り返り

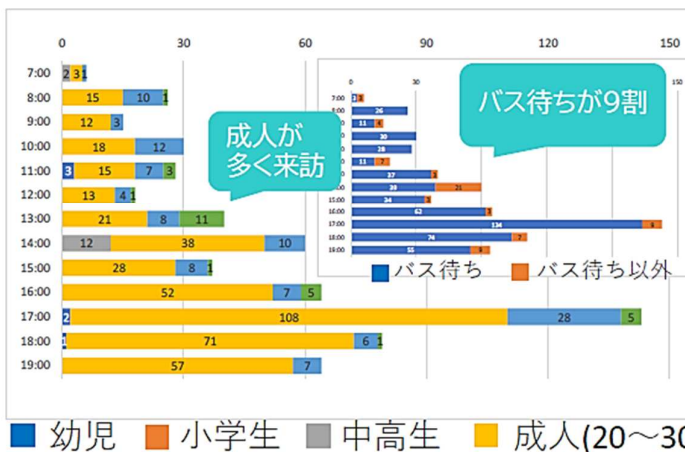
社会実験結果

(1) 来訪者の特徴、市民の意向

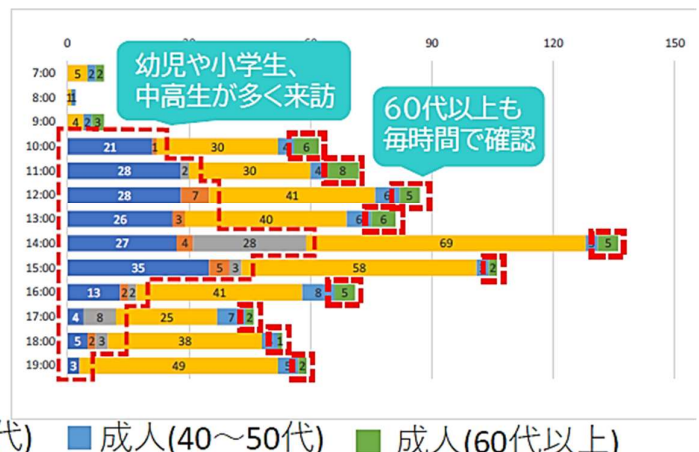
- ① 旧さくら野側、E D E N側とも、実験前と比較して歩行者交通量が増加
- ② 普段の歩行者は20代～50代のバス利用者（学生、会社員）が大半
- ③ 実験中は幼児や小学生などの親子連れ、中高生などが大幅に増加
- ④ 「良い取組み」との意見が全体の7割、30代までの若い世代、市外居住者では8～9割

来訪者の変化

実験前(9月4日(日)):利用者年齢【時間帯別】



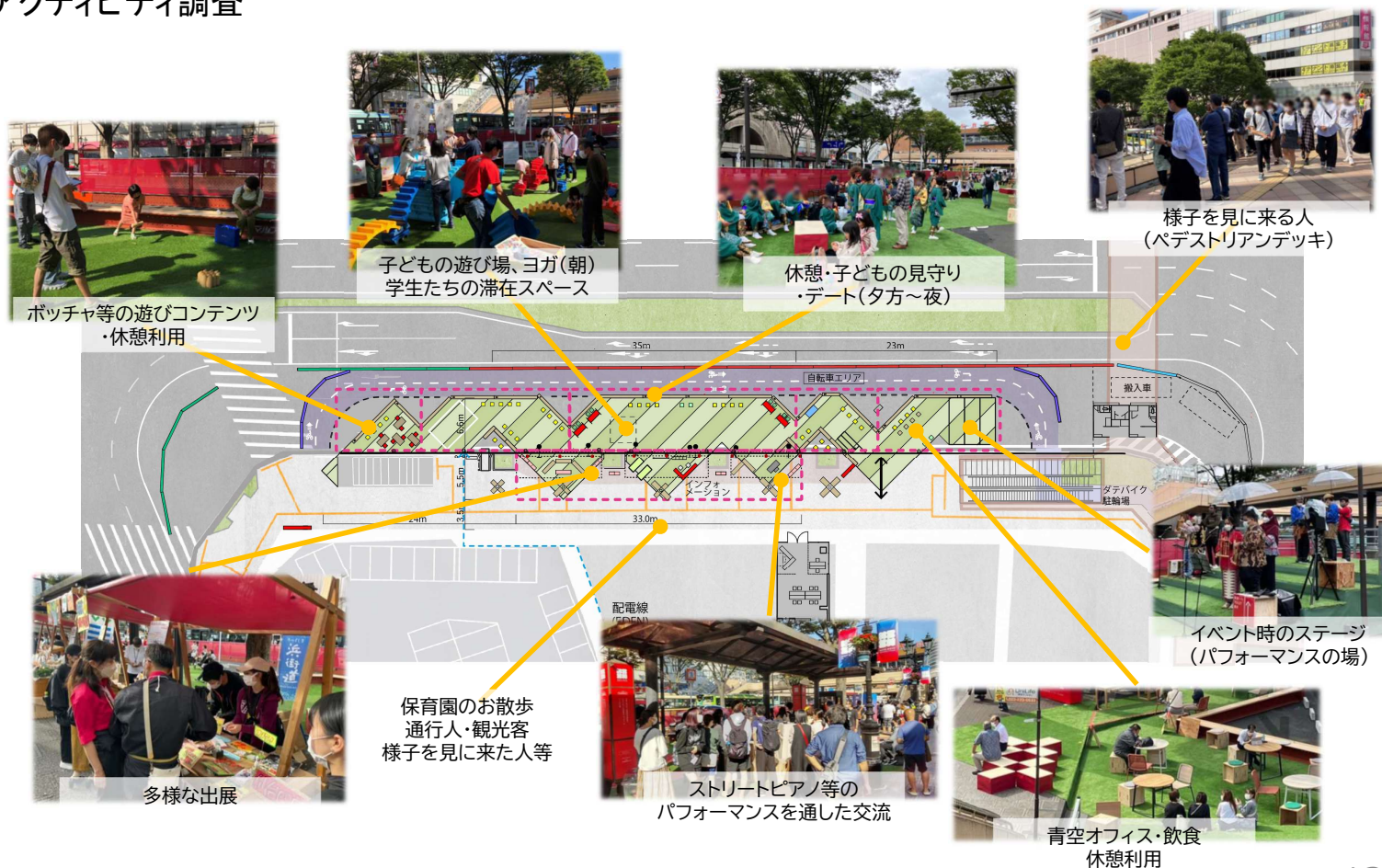
実験中(10月2日(日)):利用者年齢【時間帯別】



12

2. 社会実験結果の振り返り

アクティビティ調査



13

2. 社会実験結果の振り返り

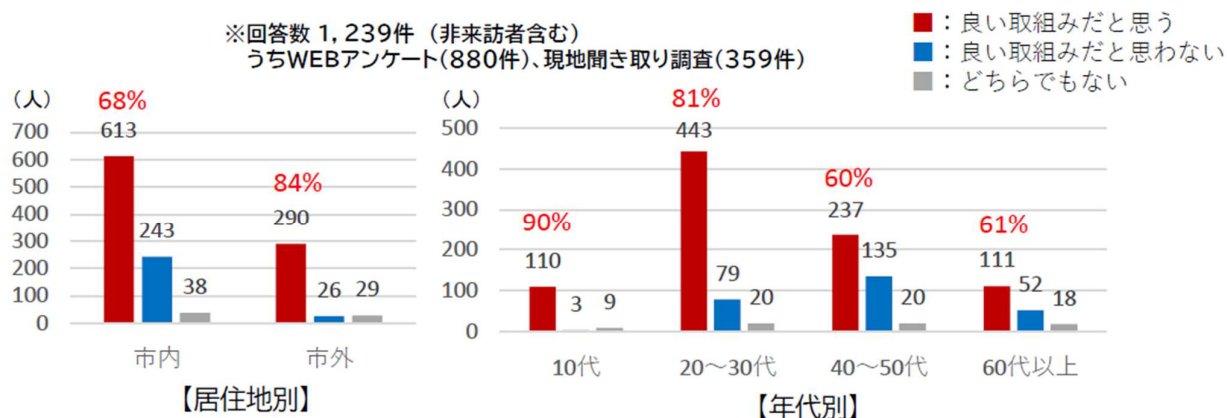
社会実験結果

(1) 来訪者の特徴、市民の意向

- ① 旧さくら野側、E D E N側とも、実験前と比較して歩行者交通量が増加
- ② 普段の歩行者は20代～50代のバス利用者(学生、会社員)が大半
- ③ 実験中は幼児や小学生などの親子連れ、中高生などが大幅に増加
- ④ 「良い取組み」との意見が全体の7割、30代までの若い世代、市外居住者では8～9割

取組評価に関する属性回答

※回答数 1,239件 (非来訪者含む)
うちWEBアンケート(880件)、現地聞き取り調査(359件)



14

2. 社会実験結果の振り返り

社会実験結果

(2) 交通への影響

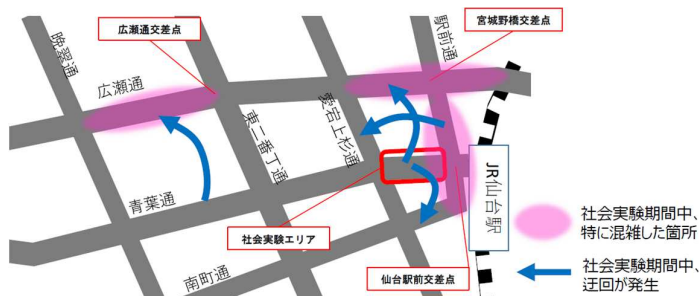
- ① 社会実験の交通規制に伴う迂回により、広瀬通と仙台駅近傍で混雑が発生した
- ② バス停留所の集約により、バス待ち行列が歩行空間へあふれる時間帯があった。また、市民からはバス停留所が分かりにくいとの声があり、実際に誤案内が発生した
- ③ 「周辺道路の混雑、駅へのアクセス性悪化」について、交通規制開始から1週間程度は多く意見が寄せられたが、その後は落ち着きを見せた

① 交通の混雑

広瀬通の混雑



仙台駅近傍の混雑



社会実験期間中の交通規制に対するバス・タクシー事業者の声

アンケート調査より
 ⇒「周辺道路等における交通混雑の影響があった」
 「一般車の誤進入対策が必要」
 「バス停付近での混雑の影響があった」、などの意見を頂いた

15

2. 社会実験結果の振り返り

② バス停留所

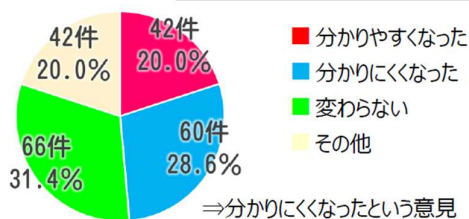


JR仙台駅
 EDEN前の高速バス停
 を旧さくら野とほうげつビル
 前に移転



バス待ち利用者のスペース不足

社会実験期間中のバス停集約に関するバス利用者の声



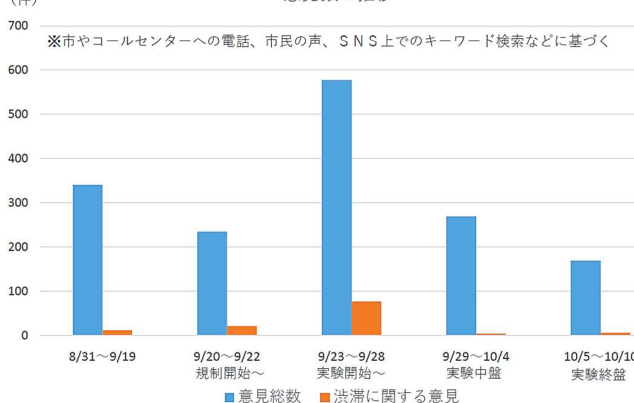
⇒分かりにくくなったという意見が多かった

その他意見・・・

- ・普段よりもバス乗り場が混雑していた
- ・待つ場所が分かりにくかった
- ・集約を知らなかった、等

③ 意見数の変化

意見数の推移



16

2. 社会実験結果の振り返り

(1) 評価点

- ◆ **取組みに対する強い関心**を呼び起こし、特に若い世代（10代～30代）や市外来訪者を中心に好印象を与え、高い評価を得たことは「仙台の顔」となるエリアの将来の姿や「表情」につながるものである
- ◆ 仙台の強みである若い世代を中心とした多様な主体が、統一したブランディングに基づくデザイン、空間、交流体験を重視したコンテンツにより、**新しい賑わいと魅力を生み出すポテンシャルを確認**できた
- ◆ 幼児や小学生などの親子連れや高齢者など、普段とは違う層が来訪し、**多様で多世代にわたる交流の場**となることが確認できた
- ◆ ペDESTリアンデッキ上で足を止めて眺める方が多くいるなど、このエリアでの取組みがきっかけとなり、**まちへの回遊の起点となるポテンシャルを確認**できた

(2) 課題点

- ◆ 「実験目的が分かりにくい」という意見が一定数あり、**発信を強化**する必要がある
- ◆ 悪天候時の対応や、仙台の気候の特徴を踏まえ、**年間を通して活動、交流、滞在を生み出していく工夫**が必要である
- ◆ **沿道店舗との相乗効果**を生み出すためには、連携を意識した取組みが必要である
- ◆ 都心の回遊性向上に向けては、駅前エリア単体での取組みだけではなく、周辺エリアとの連携など**都心全体での取組み**が必要である
- ◆ エリアでの活動をコーディネートする人材や、ブランディングを含めた企画、デザイン、広報等の役割を担う人材など、**体制を継続的に整える**が必要である
- ◆ 将来のビジョン策定の際には、今回の実験で得られた交通課題を活かし、必要な対策と合わせた**道路空間のあり方を検討**する必要がある。

17

2. 社会実験結果の振り返り

- 社会実験の結果を踏まえ、エリアに求められる機能、空間とその規模等について、様々な意見を反映させながら、将来ビジョン策定に向けて検討を進める
- 将来にわたり持続的に取組みを実施・運営していくため、多様な主体と様々な役割の担い手の発掘、育成を進める

社会実験で生まれた新たな風景



突発的に発生したダンスとそれを楽しむ歩行者



YOSAKOI参加者が休憩中



近場の保育所からのお散歩



親子連れの空間



見知らぬ人同士がたき火を囲んで交流
奥の沿道店舗施設との連続的な空間



道やペDESTリアンデッキからステージを眺める歩行者

18

3. 今後の進め方

3. 今後の進め方

昨年度までの実績と今年度の方針

社会実験の実施・効果検証

協議会で検討した「エリアづくりの3つの視点」について、効果検証を実施

利活用空間により、多世代による多様な活動、交流、滞在等の新しい魅力や他エリアへの回遊を生み出せるエリアとしてのポテンシャルを確認

今年度の方針

「仙台の顔」としてのエリアの将来ビジョンについて、
官民で「共通の認識」を持ちながら、進めていきたい

※今年度は、青葉通駅前エリアに求められる機能、空間、要素、規模感を検討

21

3. 今後の進め方

駅へのアクセス性と今後検討する新たな魅力(求められる機能・空間・要素)の関係性

駅へのアクセス性

市としては、
仙台駅は「仙台の重要な交通拠点」

・H24～R5にかけて、仙台駅周辺の
再整備を実施

【委員の意見】

青葉通が他の通りと異なる最大の要素
・「仙台駅につながる道。アクセス性は重要」

将来ビジョン検討においては、
「駅へのアクセス性確保」の要素を
十分に踏まえる

「新たな魅力」の要素 (活動・交流・滞在など)

【社会実験では・・・】

・アンケート回答のうち、
全体の7割が「良い評価」との意見

・「楽しい」「嬉しい」などの好印象を与えた

顔に「表情」を加えることで、
顔をより「豊かに」できるのでは？

「駅へのアクセス性」は駅前エリアの重要な要素であることを念頭において
「広場化」「車線削減」ありきではなく、
「新しい魅力」の要素である機能・空間を**沿道開発との連携を見据えながら検討**

【それぞれのバランス感が重要】

22

3. 今後の進め方

将来ビジョンの策定目的と構成等

将来ビジョンの策定目的

「仙台の顔」として、このエリアの将来のあり方について
官民で「共通の認識」のうえ検討した結果を多様な主体と共有するため

青葉通駅前エリアの将来ビジョン構成案は次ページのとおり

【留意点など】

- ①「将来ビジョン」は決まりきった形はなく、構成は決まっているものではない
- ②沿道開発との連携を見据えながら検討
 ⇒皆さんの意見を尊重しながら構成を検討
- ③広場化、車線削減等の形状に関することはビジョンに盛り込まない
- ④理念、ビジョン策定後のビジョン実現に向けた行動指針（アクション）、ロードマップ、推進体制等を盛り込む

3. 今後の進め方

将来ビジョンの構成と他都市事例

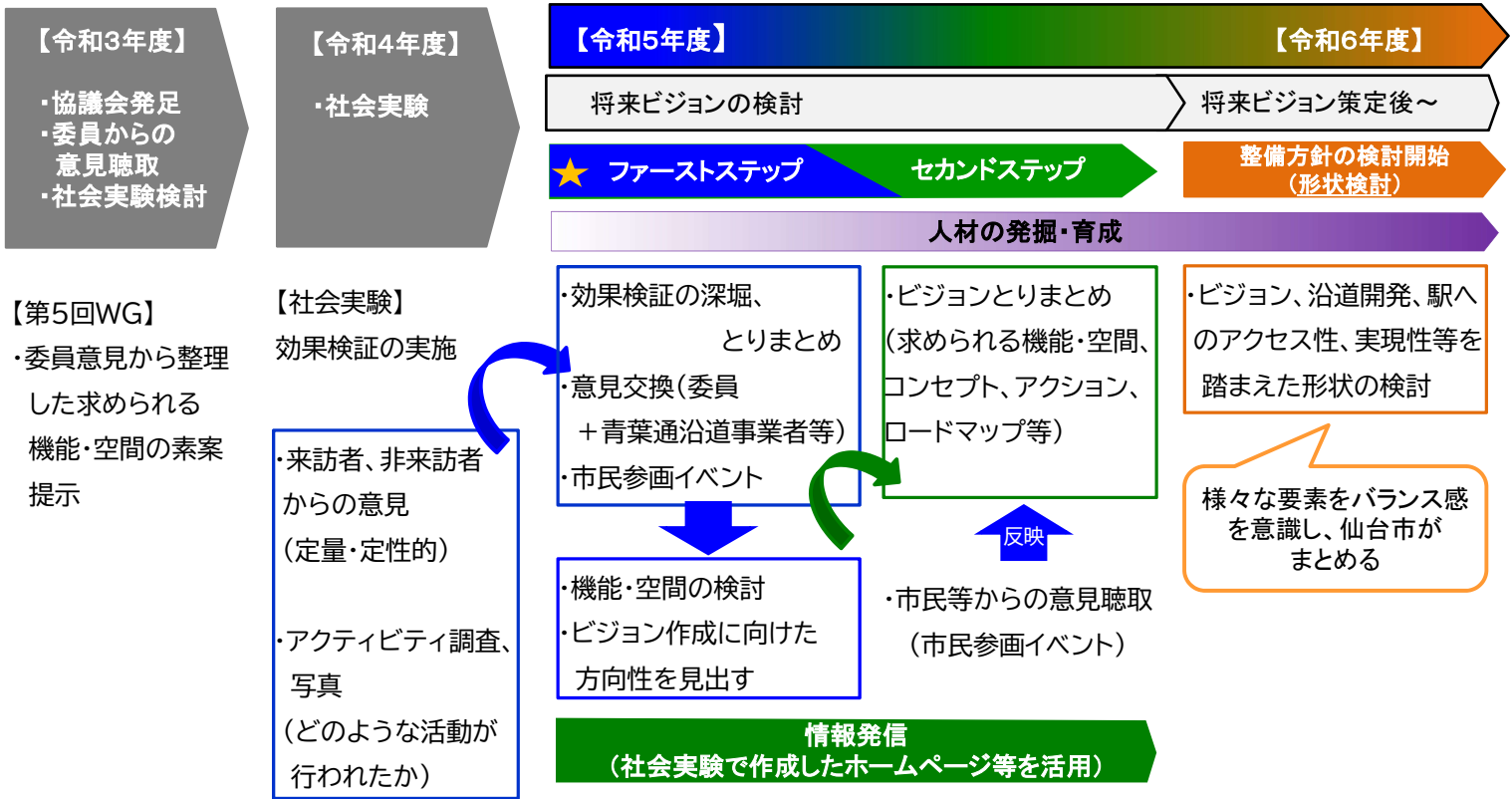
	青葉通駅前エリアの将来ビジョン (構成案)	定禅寺通エリアまちづくりビジョン2030	御堂筋将来ビジョン (大阪市)	自由が丘未来ビジョン (東京都目黒区)	柏の葉ウォークアブルデザインガイドライン (千葉県柏市)	ひろさき、このさき、VISION BOOK 2050 (弘前市)
策定主体	青葉通駅前エリアのあり方検討協議会	定禅寺通活性化検討会	大阪市	自由が丘エリアプラットフォーム	柏の葉アーバンデザインセンター	中土手町まちづくり協議会 (文化交流エリア周辺地域エリアプラットフォーム)
エリア指定・対象エリア	○	● 区域線を示さず 大まかなエリアを提示	● 広域図を提示 (具体的なエリアは未記載)	● 対象区域を明確に線引き	△ 駅周辺エリアを対象 (エリア内の歩行者ルートを設定)	● 区域線を示さず エリアの鳥瞰図を掲載
理念・基本方針	○	●	●	●	●	△ 項目出しはないが、目的等で記述あり
将来形(将来イメージ)キービジュアル	×	● エリア毎のショットパース	● 鳥瞰パース	● 方針・エリア毎のショットパース	×	● エリア毎のショットパース
アクション(行動指針・取組)	○	●	●	●	●	●
ロードマップ	○	●	● 時期の記載なし	×	×	●
推進体制(関係図)	○	●	●	●	×	●
策定後も内容の更新を続けていくもの	○	×	×	●	×	●

将来ビジョンの構成は、策定主体や地域によってそれぞれ異なる

3. 今後の進め方

青葉通駅前エリアにおける将来ビジョン作成の進め方イメージ(案)

★ 現在の位置



沿道開発との連携(あり方検討状況を随時情報共有・意見交換)

3. 今後の進め方

青葉通駅前エリアに求められる機能、空間

令和3年度 第5回WGで提示した「求められる機能、空間イメージ(素案)」

視点1:「仙台の顔としてのエリア」

- 仙台の個性や強みを生かした機能・空間(豊かな緑、防災環境都市、学都、文化など)
- 「おもてなし」の機能・空間
- 仙台駅を出た人が認識しやすい機能・空間(特徴的な目印、サイン、アプローチなど)
- 仙台・東北を気軽に体感できる機能
- 他のエリア(東北、仙台市内、都心各エリア)に導く機能(他のエリアを案内する機能、他エリアとの連携など)
- 風が強い日、寒い日を生かした機能・空間

視点2:「多様な活動を生み出していく人中心のエリア」

- 周辺のオフィスワーカー、親子、若者など、様々な人が楽しめる機能・空間
- 居心地の良さを感じる機能・空間
- 来訪者や周辺のオフィスワーカー等が安心できる機能・空間
- アクセスしやすく、移動したくなる機能
- 音、色、匂いなど五感を刺激する機能・空間
- 人との交流や出合いを促す機能・空間

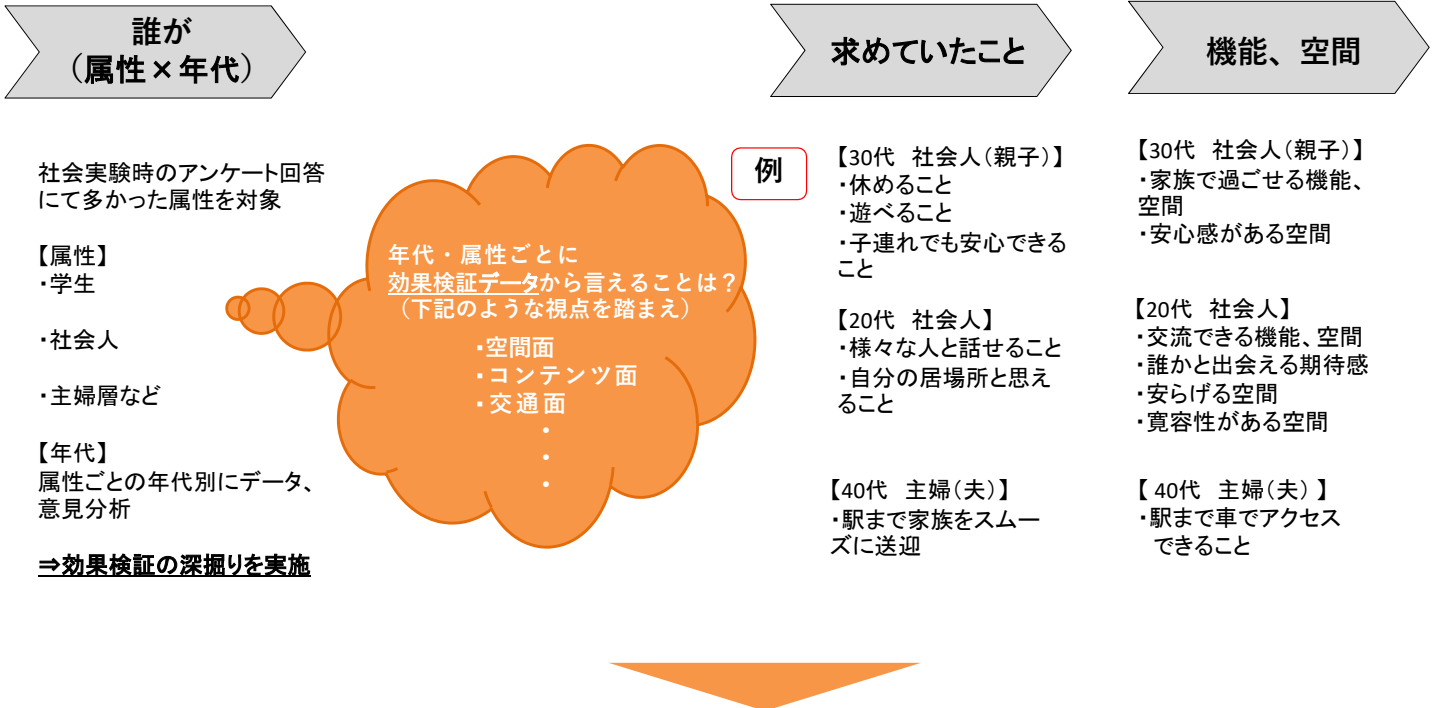
視点3:「エリア価値向上のために挑戦するエリア」

- フレキシブルに運用できる機能・空間(必要に応じて歩道空間を広げるなど)
- 将来ビジョンを踏まえつつ、社会のニーズや変化に柔軟に対応する機能・空間
- 隣接建物との相乗効果を発揮する機能・空間(隣接する建物との一体性や連携)
- 新たなコトを起こし、新たな価値を生み出し続けることを意識して機能・空間を考える
- 新たなテクノロジーを積極的に活用することを意識して機能・空間を考える
- このエリアの持続可能な運営を意識して機能・空間を考える(人材発掘・育成、収益事業と維持管理など)

3. 今後の進め方

青葉通駅前エリアに求められる機能、空間

令和4年度の社会実験を踏まえた、今年度における検討イメージ



将来ビジョン作成に向けた”素材集め”と”とりまとめに向けた整理”を進める

3. 今後の進め方

青葉通駅前エリアに求められる機能、空間

令和4年度の社会実験を踏まえた、今年度における検討イメージ

社会実験で確認できた利用風景

例:居場所・遊び場となる空間(10歳以下の子ども)



遊具の設置



平日の保育園の散歩での利用

例:交流が起きる空間(10代～高齢者までの老若男女)



ストリートピアノ



焚火

アクティビティ

- ・しゃがみこめる、休める
- ・お絵かきできる
- ・遊べる
- ・走り回る
- ・親や先生が見守れる場所

- ・パフォーマンスができる
- ・何かを囲んで話ができる
- ・誰もが滞在できる
- ・イベントの開催ができる

空間的設え

どのような空間的設えにより…

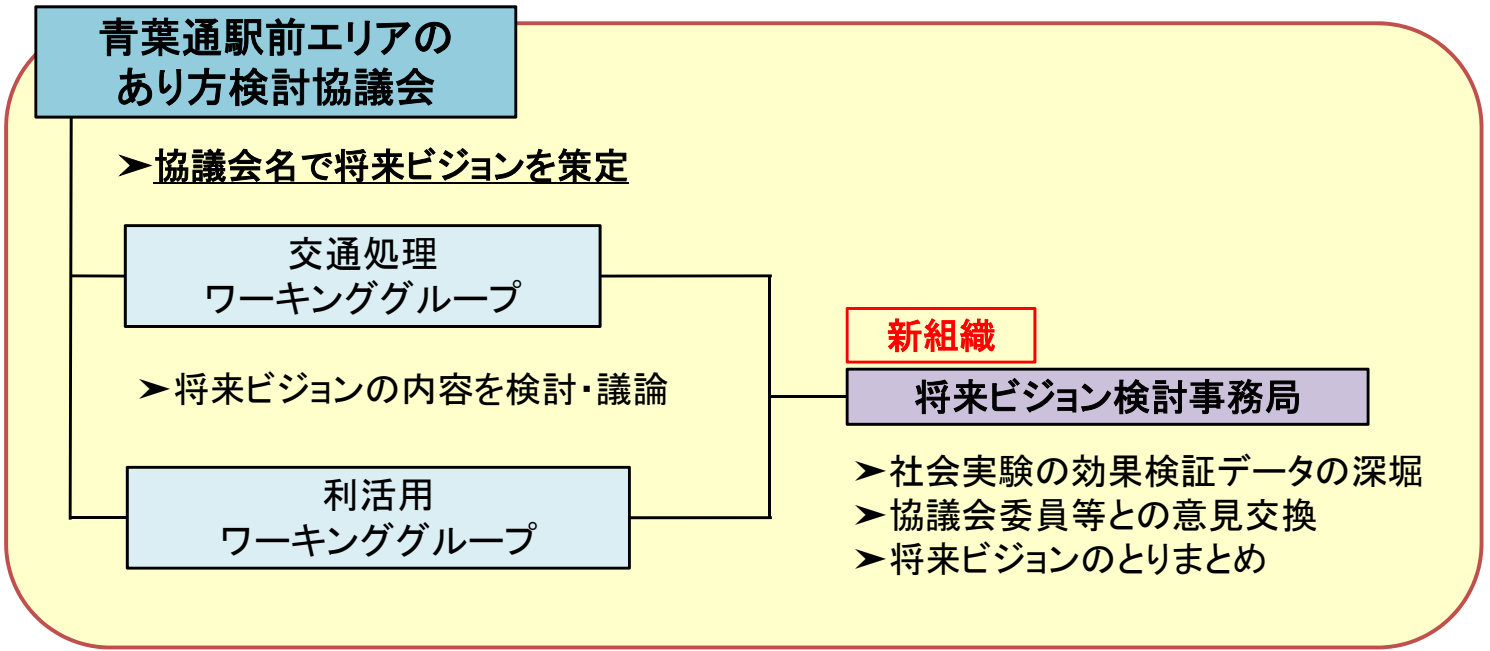
- ①コンテンツが…
- ・行えた？
 - ・人が集まった？

- ②企画したコンテンツ以外のアクティビティが…
- ・自然に行われた？
 - ・居場所が感じられた？

写真も用い、社会実験で確認できた風景から年代・属性ごとに求められる機能・空間・要素を抽出

3. 今後の進め方

将来ビジョン作成のための新体制



将来ビジョンの素案を作成する組織として協議会内部に「将来ビジョン検討事務局」を新たに設ける

3. 今後の進め方

将来ビジョン作成のための新体制

将来ビジョン検討事務局 ～社会実験に携わって頂いた方々を中心に構成～

役割		担当			R4年度社会実験担当
統括・調整		仙台市都心まちづくり課・交通政策課			
連携・協力		青葉通まちづくり協議会			
効果検証データ深堀	とりまとめ	委員	FOLK GLOCALWORKS	奥口 文結	ブランディング
		委員	KAI ARCHITECTS	貝沼 泉実	空間デザイン
			TORCH	小松 大知	ビジュアルデザイン
			(一社)ONE TOHOKU HUB	伊藤 愛発	プロモーション
	意見交換、人材発掘の機会づくり	委員	あいだ研究所 代表	岩間 友希	情報整理 定性調査サポート
			Studio Soda Sendai	昆野 沙耶	情報整理 定性調査サポート
		エンスペース(株)	伊藤 小百合	コンテンツ	
効果検証データ分析・サポート		(株)オリエンタルコンサルタンツ			

3. 今後の進め方

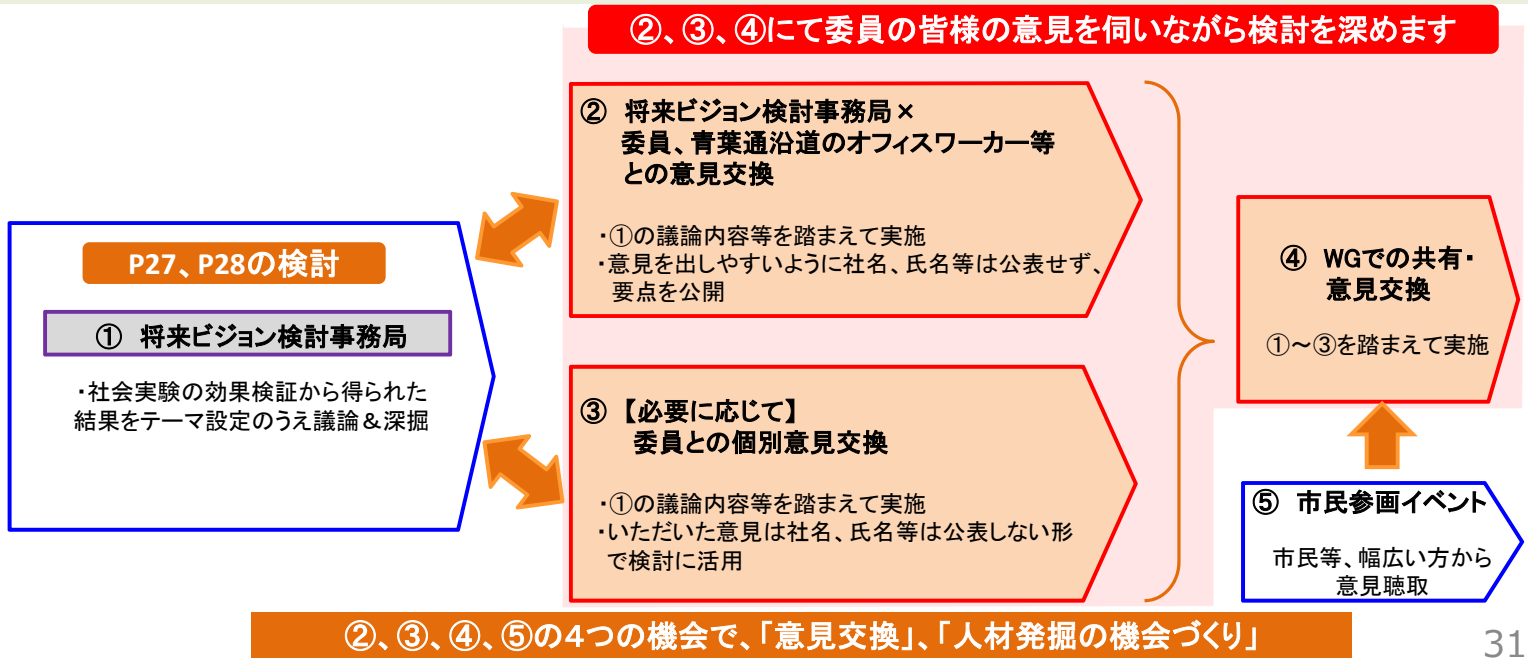
青葉通駅前エリアに求められる機能、空間

令和4年度の社会実験を踏まえた、今年度における検討イメージ

社会実験における効果検証の深掘から得られたこと
(将来ビジョン作成に向けた“素材”や 年代・属性ごとに求められる機能・空間・要素)

青葉通に関わる方々と、各立場の前提となる考えも踏まえた意見交換、意見聴取を実施

???どのように実施していくか???



3. 今後の進め方

将来ビジョン作成に向けたスケジュール

※各ステップを丁寧に進めていくことが重要

検討体制	令和5年度		令和6年度	
	ファーストステップ	将来ビジョン セカンドステップ	整備方針の検討開始 (形状検討)	
1 協議会	第6回目	第7回目	第8回目	
2 WG		第9回目 第10回目	第11回目 第12回目	
3 将来ビジョン 検討事務局		WGに検討状況を共有・意見交換	WGに検討状況を共有・意見交換	
①社会実験の 効果検証深掘	効果検証の深掘	将来ビジョン作成に向けた方向性の整理		
②ビジョンとりまとめ		コンセプト検討、ビジョンとりまとめ		
③意見聴取(協議会委員・青葉通関係者等)	効果検証の深掘、ビジョン作成に向けた意見交換			
	将来につながるコミュニティ、アクティビティ発掘の機会づくり			
4 市民参画 イベント	第4回目	第5回目	第6回目	
	MOVE MOVEとは何だったのか(仮)	未来の青葉通駅前エリアを考える(仮)	ビジョンについて(仮)	

沿道開発との連携 (あり方検討状況を随時情報共有・意見交換)

【参考資料】他都市の将来ビジョン

【参考資料】他都市の将来ビジョン

策定主体

定禅寺通活性化検討会・仙台市
定禅寺通エリアまちづくりビジョン2030



1. まちづくりの目的
2. 定禅寺エリアまちづくりビジョン2030とは (まちづくりの方向性・指針、これまでの検討成果のとりまとめ)
3. まちの、変わらない想い(期待、課題等)
4. 2030年までには私たちが実現したいこと (空間イメージ、エアリアプランディング戦略、取組むプロジェクトの内容)

まちづくりの理念と目指すまちのイメージ



ちとせエアリアプラットフォーム・千歳市 ちとせ未来ビジョン



1. ちとせ未来ビジョンを使う皆さん(体制)
2. ちとせってどんなまち?
3. まちの顔エリアをみつめよう(課題等)
4. わたしたちが目指すエアリアの将来像
5. 未来ビジョンの実現に向けた取組



将来像



ロードマップ



【参考資料】他都市の未来ビジョン

構成・内容(御堂筋未来ビジョン_大阪市)

御堂筋 未来ビジョン
世界最新モデルとなる、人中心のストリートへ。
みちから まちを変えていく

2019年3月
大阪市



将来イメージ

【道路空間】
「世界最新モデルとなる、人中心のストリートへ」
～まちとつながり、人がつながって新たな価値を創出する空間へ～

【道路空間の取組み】
人中心～フルモータル化
御堂筋完成100周年をターゲットイヤーとした検討と実践を推進

【都市】
都市のリノベーション～大阪・関西の成長
～都市のリノベーションを推進するトリガーとしての道路空間の再編～

【整備イメージ】
エリアテーマ「楽しく多ける賑わい商業エリア」
エリアテーマ「落ち着いた賑わいを結ぶ。高級商業とビジネスの複合エリア」

価値ネットワーク
都市インフラネットワーク

道を歩行者に開放した「歩行者天国」のイメージ

段階的な取組み

3. 将来ビジョン実現に向けた段階的な取組み

- 将来ビジョン実現に向けては、都心部全体の交通ネットワークの再編をはじめ、歩行者と多様なモビリティが安全に共存できる仕組みづくりなどが、様々な分野において段階的に取組むことが必要です。特に、都心部全体にわたる交通影響が大きいことから、まずは開道を活用した空間再編を行うことで、段階的に人中心の空間を創出していくこととします。
- 御堂筋の地域特性やこれまでのモデル整備、社会実験の結果をふまえ、まずは千日前通から道頓堀川区間を先行して歩行者空間化を進めることとし、社会実験や整備後の検証を実施しながら、順次北側にに向けて取組みを進めていくこととします。
- 人中心～フルモータル化に向けては、御堂筋完成100周年(2027年)をターゲットイヤーとして、都心部全体の交通ネットワークの再編や人と多様なモビリティが安全に共存できる空間・仕組みづくりに関連する取組を進めるとともに、交通・にぎわい創出社会実験等を通じて開道効果を検証しながらビジョンの実現をめざします。



ファーストステップ
歩道歩行者空間化

▶ 短・中期目標
短期目標:千日前通から道頓堀川区間は東京駅リニア・タナシバビルが開業される2020年
中期目標:道頓堀川以北は2025日本万博博覧会が開催される2025年

【歩道歩行者空間化に向けた主な取組み】

- 社会実験などによる交通や環境への影響の検証
- 交通や環境等、自らの運行や活動のあり方、空間の活用手法などを地元関係者と議論する場を設ける
- 持続可能な社会構築体制づくりなど

将来ビジョン
人中心～フルモータル化

▶ 長期目標
御堂筋完成100周年(2027年)をターゲットイヤーとして設定

【人中心～フルモータル化に向けた主な取組み】

- ▶ 歩道歩行者空間化に向けた主な取組みの検証・実践
- 都心部全体の交通ネットワークの再編
- 人と多様なモビリティが安全に共存できる空間・仕組みづくりなど

※取組みの進捗状況により、目標年次を変更することがあります。

1. はじめに
2. 御堂筋の変遷と今後求められる役割
3. 御堂筋未来ビジョン
4. 将来ビジョン実現に向けた段階的な取組み
5. 公民連携体制づくり

【参考資料】他都市の未来ビジョン

構成・内容(都市再生推進法人株式会社ジェイ・スピリット(自由が丘エリアプラットフォーム)_東京都目黒区)

自由が丘駅周辺地区グランドデザイン

自由が丘駅周辺地区
グランドデザイン

自由が丘らしさを継承したくらしのためのバージョンアップ
【自由が丘ver. 5.0】への挑戦

2020年(令和2年)9月
都市再生推進法人
株式会社ジェイ・スピリット



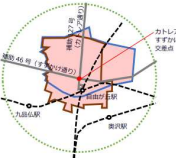
1. グランドデザインの目的と位置付け
2. 自由が丘らしさとグランドデザインの基本理念
3. くらしの将来像
4. まちの将来像
5. 必要な取組・施策
6. グランドデザインの推進

自由が丘未来ビジョン

自由が丘未来ビジョン
[ATAGAKI: FUTURE VISION 2050?]

「自由の思想」で創造していく
グリーン社会のための小さな挑戦を繰り返す

対象範囲



将来イメージ



将来イメージ

1. よりハリある賑わいで賑わう商業圏と複合的土地利用のまち
 2. 交通アクセスの利便性と歩行者中心のまち
 3. 美観に対する意識が高く環境負荷が少ないまち
 4. みどりや緑が豊かで健康志向のまち
 5. 趣向性や成長性があるまち
6. 近接空間上の、もう一つの自由が丘(スマート・J)

取組策

方針⑤ 建物の更新に伴って(高歩地区)内の「細道」を
「歩道・立体に増やし敷いていく」

歩道歩行者空間を拡大する重要施策である。高歩地区再編等の進展に伴って、歩道歩行者空間を拡大していき、歩道歩行者空間を確保していくことで(高歩地区)の魅力向上を図る。一定規模の建物は、それぞれ建物の構造や用途、建物高からのアプローチなどによって「細道」を確保する。建物高からのアプローチは、歩道歩行者空間を確保する上で、立体的なアプローチを確保していくことが重要である。また、歩道歩行者空間を確保していくことで、歩道歩行者空間を拡大していくことが可能である。

方針⑥ 新たに生まれる歩行者空間や広場において
歩行者がふと足を止めるような取組を日常化していく。

歩道歩行者空間や広場において、歩行者がふと足を止めるような取組を日常化していく。歩道歩行者空間や広場の整備や、歩行者がふと足を止めるような取組を日常化していく。歩道歩行者空間や広場の整備や、歩行者がふと足を止めるような取組を日常化していく。

【参考資料】他都市の将来ビジョン

構成・内容(柏の葉ウォーカーブルデザインガイドライン_柏の葉アーバンデザインセンター_千葉県柏市)



基本方針

2.1 柏の葉ウォーカーブルタウンの実現に向けた8つの基本方針

A) スケール感の適正化

市場原理とそれに影響された建築の潮流が、都市空間の相互の関係性より、個々の建物を重視させてきた。そのため、共用空間を利用、滞在する大多数の人々が軽視されがちであるという現実がある。

その結果、交通手段としての徒歩歩行が減少しただけでなく、都市空間が社会面と文化面で果たす役割が狭められてきた。歩行者中心の考え方を強化し、都市空間が持っている交流の場所としての社会的役割を強化する必要がある。そのために、都市空間において、人間のスケール感を意識し、歩行空間としての最適化を図る必要がある。



該当する具体的手法
1, 3, 4, 10, 25, 26, 29

B) 目的意識の付与と多様なアクティビティへの派生

人々が移動をする場合、目的を持った歩行に迫られた活動であることが大半である。仕事や学校に行く、買い物に行くなどの生活に必要な活動の交通手段として積極的に歩行が選択されるような機能の配置と歩行空間の整備が必要である。



該当する具体的手法
1, 5, 9, 10, 11, 12, 14, 15, 16, 20, 21, 42

C) 回遊性と選択性の向上

移動手段としての歩行は、自分に都合の良い最短期間を進むことが一般的である。しかし、道中の質が異なり、体験できるものが豊富で快適であれば、歩行者は距離よりも体験を楽しむ傾向がみられる。



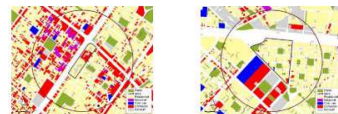
該当する具体的手法
1, 2, 3, 4, 7, 9, 12, 13, 14, 15, 20, 21, 22, 29, 33, 34, 35, 36, 37, 39

具体的手法

2.2 柏の葉ウォーカーブルタウンを実現するための具体的手法

1 まちをミクストユースにする(土地利用の多様性を高める)

居住や就業、買い物、レクリエーションなど様々な活動が高密度でこなされる地域は、それぞれの特徴を有する活動も増え、歩行量が高まります。地域の土地利用の多様性を高めることは、ウォーカーブルなまちづくりに寄与します。具体的には、住宅、オフィス、学校、商業店舗、コミュニティスペース、レクリエーション施設など複数の施設を複合的に配置することが考えられます。



土地利用の多様性が高いエリアの例
Para DC, Gomez LF, Fleischer NL, David Procan J. Built environment characteristics and perceived active park use among older adults: results from a multi-site study in Bogota. Health Place. 2010 Nov; 16(6): 1174-81.

2 公共交通のネットワークを充実させる

自動車に過度に依存せず、公共交通を積極的に利用するライフスタイルは歩行量が増加します。利用しやすい公共交通環境の構築には、そのネットワークを充実させることが望まれます。具体的には、バス停などの停留所を多くする案があります。



公共交通の停留所 (BY Altavia) 公共交通の停留所 (BY Moviitapi)

1. ガイドライン策定の背景(意義、位置づけ)
2. 柏の葉ウォーカーブルタウンの実現に向けて(基本方針・具体的手法)
3. 柏の葉キャンパスにおける都市的課題の整理
4. 柏の葉キャンパス駅周辺エリアにおけるウォーカーブル向上に向けたケーススタディ

- a. スケール感の適正化
- b. 目的意識の付与と多様なアクティビティの派生
- c. 回遊性の選択性の向上
- d. 安全と安心の確保
- e. 歩行空間の維持管理とコミュニティ意識の醸成
- f. モーダルミックスの実現
- g. 自然・文化との接点
- h. 情報の収集とフィードバック

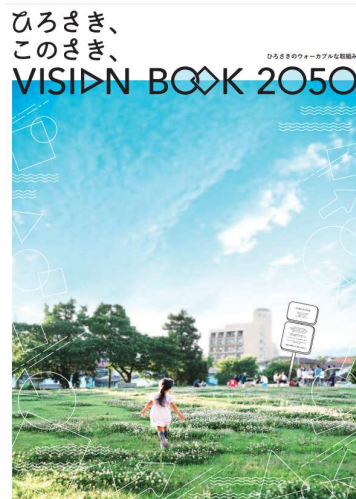
- i. まちをミクストユースにする
- ii. 公共交通のネットワークを充実させる
- iii. 大きい街区内部には街路を設ける
- iv. ヒューマンスケールの歩行空間のネットワークをつくる
- v. わくわくする風景やシーケンスをつくる

など

ウォーカーブルタウン実現に向けた、8つの基本方針と実現に向けた手法を掲げる

【参考資料】他都市の将来ビジョン

構成・内容(ひろさき、このさき、VISION BOOK 2050_中土手町まちづくり推進会議_青森県弘前市)



1. 目標
2. 対象エリア
3. 取組み内容
4. プロジェクトのプレイヤー
5. ロードマップ
6. アクションプラン

取組み内容

取組み内容 このさきをつくる

ひろさきの点と線と面
「地域のままだまな魅力点」と「歩行空間-線」をつなげ、それぞれの場所でもみ出された活動が集まって「エリア-面」をつくっていきます。

点 Placemaking
居心地が良い空間づくり

まちを使った実証実験を通じて、公共空間やオープンスペースを活用する取組みの実施

ビジョンの展開を前にまずさまざまな規模で公共空間やオープンスペースを活用した実験を実行してまいります。そこで得られた課題や効果を次の展開につなげてまいります。

線 Area Renovation
うら道・小道の魅力向上

いまある資源をフルに活用し、活気あるエリアのつながりを創出する取組みを実施

個性豊かな店舗や民間施設等と、夜でも多様な安全安心な歩行空間をつくることで、コンタクトをつなぎ、ヒトをみらびく「集積」としての魅力を創出します。

面 Area Vision
未来のエリアビジョンづくり

ワークショップやシンポジウムを通じて、具体的な将来像をつくる

エリア別未来の「アフターコロナ」におけるまちづくり手法を開発委員会内で話しながら段階的に将来像をつくります。

アクションパート

coming soon...

目標年次(2050年)に向けて、
随時情報を更新

【参考資料】他都市の将来ビジョン

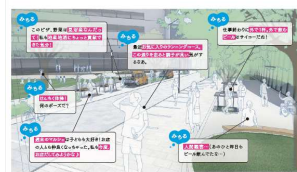
構成・内容(大宮駅周辺ウォーカブル推進戦略 活動編_埼玉県大宮市)



- わたしの時間がみちるまちとは
- わたしの時間がみちているまちの姿
- 『わたしの時間がみちるまち』の実現に向けて
- あなたの「つかう」が「つくる」を変える！
- 「わたしの」の「つかう」を仲間たちと(推進体制)

将来イメージ

目指す姿 1 大宮中央通線+氷川参道



目指す姿 2 一の宮通り



対象範囲



取組み内容

戦略 1 心も体もまちも満たされたウェルビーイングなまちづくり

戦略 2 地域資源と活動をつなげるコマづくり

戦略 3 変化やニーズに柔軟に対応できるフレキシブルなまちづくり

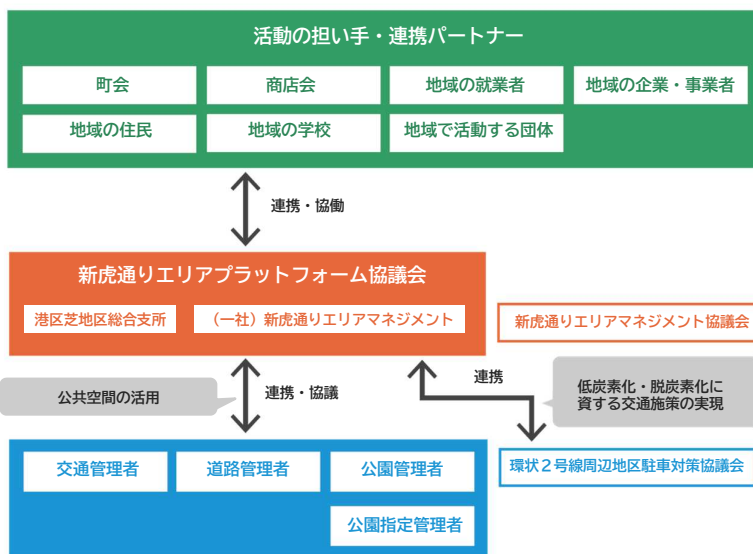
戦略 4 人と人、人と出来事の出会い・交流からイノベーションが生まれるまち

活動編として、「わたしの時間がみちるまち」を目指した活動・取り組みを掲げる

【参考資料】他都市の将来ビジョン

推進体制

新虎通りエリアプラットフォーム協議会(東京都港区)



出典 新虎通りエリアマネジメント: <https://shintora-am.jp/about/future/>

オープンカフェ



道路内建築



道路内建築各棟への出店希望者は、(一社)新虎通りエリアマネジメントに申請し、利用が可能に

⇒町会や商店会等の地域活動の担い手と、行政等の公共空間の管理者をエリアプラットフォームが橋渡し

【参考資料】他都市の将来ビジョン

ロードマップ(松本城三の丸エリアビジョン_長野県松本市)

街へ出る動機となる居場所・目的地を増やし、心地よく巡れる環境をつくる

豊かなシーンを実現するために、エリア全体を対象とした都市デザインを行います。
4つの都市デザインの方針に沿って、街へ出かけたい居場所や目的地を増やすとともに、歩行者を中心とした交通体系を構築することで、それらを心地よく巡れる環境づくりを行います。

都市デザイン-1 これまで / これからの取組みを日常の風景へ

特色ある取組みを日常の暮らしのシーンとしていくために、持続的な取組みを支える仕組みをつくります。

持続的な取組みを支える仕組みづくり

- 仕組みのイメージ
 - ・活用ノウハウを共有できる環境の構築
 - ・取組みを運営するチームの体制強化
 - ・公共空間活用の規制緩和、手続きの簡便化など

都市デザイン-2 選択多様性のある身近な居場所・目的地づくり

公共空間や空き地、空き家などの活用を促進し、日常の身近な居場所・目的地を増やします。

仕組みを展開した居場所・目的地づくり

既存の居場所 → 検証と改善 → 新たな試行 → 他界隈へ展開

都市デザイン-3 界隈の魅力が連なる歩行者ネットワーク形成

暮らす人 / 訪れる人が界隈の魅力をしみながら巡ることができる歩行者ネットワークを構築します。

居場所・目的地を巡れる歩行者ネットワークづくり

都市デザイン-4 誰もが心地よく移動できる交通体系づくり

心地よく巡れる環境をつくるための交通施策、新しい技術を用いたモビリティ導入、道路空間整備などを推進します。

歩行者優先の環境を実現する交通体系づくり



水辺のマルシェ (女鳥羽川)



THE SANNOMARU TERRACE (大名町通り)



まつもと古市 (松本城大手門側形跡広場)



工芸の五月 (辰巳の邸庭など)



みどり食堂 (辰巳の邸庭)



パレット広場 (都市計画道路事業予定地)

R3 / 2021

R4 / 2022

R5 / 2023

R6 / 2024

R7 / 2025 ~

目指す姿と進め方を考える

● ビジョン策定

STEP 1 シーンを想像する

STEP 2 シーンに共感する仲間を見つける・増やす

- 界隈毎に個別のプランを検討・作成
- (仮称) 三の丸エリアプラットフォーム設立

STEP 3 小さくチャレンジする効果を検証し改善する

- 界隈毎にパイロット・プロジェクトとして具体的な社会実験の実施・効果検証・改善を繰り返し持続可能な仕組み作りを目指す
- エリアプラットフォームにて情報共有・連携

日常のシーンへ

● 定期的な取組みへ

PROCESS

- 基本方針や取組内容で掲げた内容の目標年次を設定
- 短期的な目標を設定する地域や、中長期的なロードマップを設定する地域もみられる